

発 言 通 告 書 要 旨 (1 枚目 / 全 3 枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1	(1)		山中温泉ゆけむり健康村について 新たな手法について 先月の全員協議会で、「現在の公募条件での施設活用は困難であると確認した。施設活用に係る公募型プロポーザルの全ての手続を終了し、新たな手法を検討していきたい。自由な提案を求める再度の公募型プロポーザルの実施も視野に考えている」という旨の報告があった。 私は本件についてこれまで何度も継続して質問し、昨年 6 月と 12 月定例会では総合的に判断して、「もう温浴施設にはこだわらない。廃屋感が目立つので目途を付けるべき。厳しい判断もやむを得ないのでは」と述べたが、今回の「新たな手法」とはどのようなものなのか。「自由な提案」とあるが具体的にはどのような提案を期待しているのか。	
	(2)		今後のスケジュールについて この際、これまでの既成概念から完全に脱却し、加賀市の次世代のにぎわい創出の場となるような、時代や時勢に即した新たな施設計画を目指すためにも、じっくりと検討すべきと考えるが、今後のスケジュールについて問う。	
2	(1)		山中温泉ぬくもり診療所について 答申内容について 先月、加賀市地域医療審議会から様々な議論の結果、加賀市の地域医療の充実に関する答申書が出され、教育民生委員会での質問に対し、山中温泉ぬくもり診療所の在り方について報告があったが、詳細は今後検討するということであった。「市病院事業に編入」という見出しの報道に対し、通院患者や関係者の間では「今後どのような形になるのか」という不安の声が大変多くなっている。 山中温泉ぬくもり診療所を市病院事業に編入することになると、市が赤字を負担することになり、規模縮小や廃止も検討しなければならなくなるのではないかと。市が赤字を負担しない現行の指定管理者制度を終了して、あえて直営にする理由について問う。	
	(2)		旧山中温泉医療センター跡地について 関連して、地域住民の関心が高い、旧山中温泉医療センター跡地の活用について、現在の検討状況を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (2 枚目 / 全 3 枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
3	(1)		加賀市消防団の再編について 消防団員の充足状況について 令和6年能登半島地震では、発生直後から地元消防団は自ら被災しながらも、消火・救助活動などを献身的に展開されたことに敬意を表する。加賀市でも平時から、各地域の消防団は市民の安心・安全のために多大な貢献をされており、極めて重要な組織であると認識している。 しかし、近年のなり手不足や人員確保の問題は消防団も例外ではなく、全国的な傾向であることは重大な問題であり、団員確保に向けた施策の充実を図る必要がある。そこでまず、加賀市における消防団員の充足状況について問う。	
	(2)		分団の再編について 全国的に農村部や山間地など過疎地における団員確保が困難となっているようであり、加賀市でも広大な山間地である山中温泉東谷地区を管轄する山中第4分団は、団員の高齢化が進む中、分団運営にも支障が出かねないという状況にある。 山中4地区を統括する第4方面では、このような消防団のなり手不足に対応するため、地域の消防力を極力落とさないという方針の下、分団再編について検討中と聞いが、どのような形の再編でその対応に取り組むのか。	
4			加賀市公立保育園再編基本計画について 昨年12月定例会での公立保育園再編基本計画についての質問に対し、「再編計画による画一的な対応を取らず、2年程度延長し計画の見直しを行いたい」との答弁であった。 しかし、その後、保育現場や保護者らから他議員にも多くの意見や反応があり、それらを総合すると、「児童福祉施設として最低基準に達していない環境の保育園では、特に年長児が、ルールや勝敗のある遊び・運動遊び(ドッジボール・かけっこ)や同年齢で目標(運動会・発表会)に向かった主体的な話し合い、協力し合い・話し合い・考え合ってみんなで作り上げる活動等々、その発達に添った保育活動や体験ができていない。小学校に向け育てていかなければならないことができない」などの意見が大変強く、「そのためにも、小規模の保育園より、離れていても相当規模の保育園に子どもを入れている」という保護者も増えていると聞く。 市長提出議案説明における「子どもは無限の可能性を持つ豊かな存在」という子ども観をもとに、レジャ・エミリア・アプローチからの学びを取り入れた、創造性を育む保育実践を推進するためにもぜひ再編を進めるべきと考えるが、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 (3枚目/全3枚)

氏 名 荒谷 啓一

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
5			宝塚医療大学観光学部について 市長提出議案説明で、観光人材の育成を産官学で行う仕組みづくりを行い、早いタイミングで地域の企業と学生がマッチングできる仕組みの構築を目指すとのことだが、インターンシップなど観光業界との連携を含めた具体的な仕組みのイメージはどのようなものか。 また、「観光学部2年生から4年生までの学生 120 人の学修と教員の教育活動の拠点となるキャンパスの整備を目指す」とあり、報道では市内の空き公共施設を活用し、校舎などに活用することを想定しているとのことだが、どのような施設を想定しているのか。	
6			大聖寺実業高校生からの提案について 若者の市政及び議会への関心度を高める取組の一環として先月、加賀市議会と大聖寺実業高校生との6回目となる意見交換会が行われた。生徒から大聖寺駅周辺の休憩所の拡大について、提案があった。本提案の理由は、「電車が来るまでの待ち時間、現在の待合室では人が多くなると座れないから」ということで、具体的には、持ち込みできる飲食スペースや飲み物などの自動販売機、学習スペース、Wi-Fiなどの設置を要望しており、「もっと飲食物や自動販売機、待合スペースなど、高校生に目を向けた整備を追加してほしい」とのことである。 これまで、大聖寺ゲートウェイとして新たな指定管理者の下、地元高校生の様々なニーズにも対応してきたと思うが、これまでの経緯も含め、所見を問う。	